

# アンネフランク展 イベント報告書

作成者: 特定非営利活動法人conpeito

## 1. イベントの概要

タイトル	アンネフランク展~希望の花~
実施の目的	SDGsの基本思想である”No one left behind(誰1人取り残さない)”を第一目標に、引きこもり等の不登校の子どもたちと一般の大学生、高校生、中学生、小学生も交え、学ぶ楽しさとイベントを自ら企画する主体性を育む。

## 2. イベントの詳細

内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・郷土資料センターにてアンネフランクパネル34枚展示</li><li>・ワークショップ開催<ul style="list-style-type: none"><li>↳ 笹島茂先生による講演とワークショップ(ポスター制作→プレゼン)</li><li>↳ タイルアートワークショップ</li><li>↳ 笹島茂先生による語学ワークショップ</li><li>↳ 教材作り</li></ul></li><li>・オンライン交流<ul style="list-style-type: none"><li>↳ 高木洋子先生(アンネフランクパネル展の開催活動について)</li><li>↳ アンネフランクハウス Stefan先生</li></ul></li></ul> <p>▼詳細なタイムテーブル(別紙) ■【アンネフランク展】プログラム.pdf</p>
ターゲット	長崎に住む親子、教育関係者、地元企業
日時	2023/3/17 ~ 2023/3/19 (3日間)
場所	長崎県立長崎図書館郷土資料センター
後援団体	長崎県立長崎図書館郷土資料センター一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会、オランダ王国大使館、学習アトリエCOR、CLIL教員研修研究所、公益財団法人長崎県国際交流協会、長崎経済新聞、長崎県教育委員会、長崎市教育委員会長崎新聞社、長崎放送(五十音順)
協賛企業	アサヒ法律事務所、アソシエイト株式会社、elec.design Rouk、株式会社インテックス、株式会社ENGEN、株式会社経営支援センター、株式会社香月不動産、株式会社洲崎エンタープライズ株式会社、株式会社ゼニヤメディカル、株式会社博伸、株式会社フクカン、株式会社不動産マネージメント総研、株式会社ふる市場、ksnowki、くるりのパン、サクセスカバール株式会社、酒見食品工業株式会社、センリオフィス、十八親和銀行、炭火串焼もりや、ソワード株式会社、HafH Nagasaki SAI、林医院、有限会社アート長崎、有限会社久松建材店、有限会社フェウチャー、YOGA ANDANTE、リエゾングループ(五十音順)

## 3. 参加者

	1日目	2日目	3日目	合計
一般来場者数	21名	36名	39名	96名
ワークショップ外部参加者		学童:30名(職員4名含む) 聖母の騎士:14名(職員2名含む)		44名
学習アトリエCOR,conpeito	学習アトリエCOR:8名 conpeito:2名	学習アトリエCOR:10名 conpeito:5名	学習アトリエCOR:10名 conpeito:7名	20名
ボランティア大学生	10名	5名	5名	15名

## レポート

アンネフランク展の開催に際し、長崎の大学生をボランティアとして募集しました。15名もの大学生に応募いただき、事前準備から力を貸してくれました。第二次世界大戦の年表を作ったり、小学生は絵を書いたり、生き生きとした作品が出来上がりました。



事前準備の様子

会場には子供たちの作品だけでなく、有限会社アート長崎に作成いただいた横断幕や、有限会社久松建材店によるアンネフランクの肖像画のタイルアートなど、多くの企業に様々な形でサポートをいただきながら、一つのイベントを作り上げることができました。



アンネフランクのタイルアートと横断幕を取り付ける有限会社アート長崎の皆様

3/17のオープニングセレモニーでは、笹島茂先生からのお言葉や、オランダ大使館のテオ・ペータス全権公使から子供たちへのビデオメッセージを上映し、子供たちの代表として、15歳の田中理子さんによるスピーチもありました。



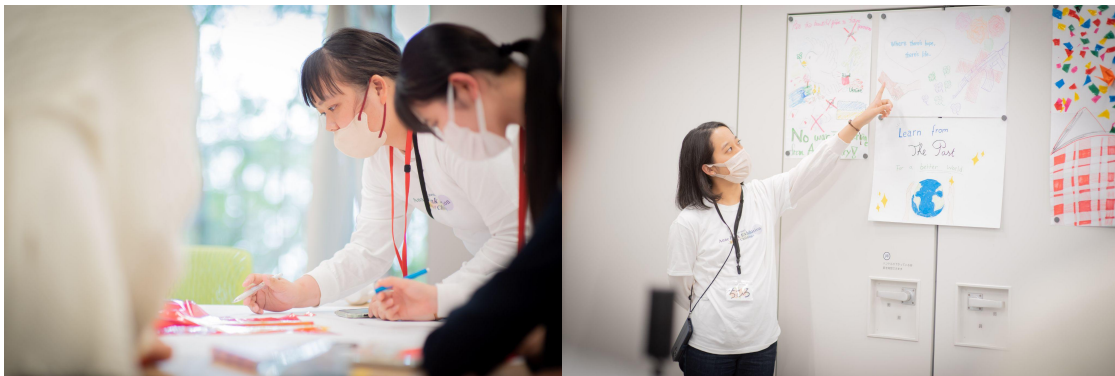
発表をする田中理子さん(15)、テオ・ペータス全権公使のビデオメッセージ

田中理子さんは『『迫害されてかわいそう』とか『寂しい』だけじゃなく、その中でも生きる希望を見つけて強く生きたアンネの強さや、子どもたちの想像力の豊かさを知ってもらって、『世界が平和になれば』と思ってほしい』と、アンネフランク展にかける想いを届けてくれました。

初日は開会式後に笹島茂先生にワークショップをしていただきました。英語と日本語を織り交ぜて子供たちと戦争と平和について考えました。笹島茂先生のお話をもとにポスター作りをし、作ったポスターについて発表をしてもらいました。不登校の子供もワークショップに参加しており、勇気を振り絞ってみんなの前に立って発表をすることができました。



笹島茂先生と、質問をするボランティアの大学生



ポスター制作、発表

二日目は、学童の子供たちや、聖母の騎士高等学校の生徒と協力しながら、5625枚の小さなタイルでアンネフランクの肖像画を描くワークショップを開催しました。背景は子供たちの感性で自由に描いてもらいました。



真剣な眼差しで取り組む子供たち

聖母の騎士高等学校にアンネのバラの展示ブースを作ってください、生徒たちがこの日のために平和学習の教材を用意して下さいました。



アンネフランク展の最終日は、満州からの引揚難民を体験し、日本でアンネ・フランク展の開催誘致に携わってきた高木洋子さんとオンラインで繋ぎ、子供たちと交流をしました。長年平和活動をされている高木先生にとって「平和」とは何か、子供たちの質問にお答えいただきました。

また、オランダのアンネフランクハウスでアジア地域を担当する職員のStefanさんとも繋ぎ、アンネフランクの生涯から学べることや、戦争の恐ろしさについて講演や討論をしました。



現地の様子を紹介するStefan先生

3日間の最後は平和の教材作りのワークショップで締め括りました。アンネフランク展を通じて感じたことや、戦争について思うことなどを、自由に表現してくれました。



教材づくりに励む子供たち

アンネフランク展は、過去、現在、そして未来について考える3日間となりました。私たちは、子供たち主体でイベントを行うことで、子供たちの学ぶ姿勢を大事にしました。

コロナウイルスの蔓延にウクライナ侵攻などにより、世界情勢が不安定な今を生きる私たちだからこそ、アンネフランクと同じように希望を持って、被爆地長崎から世界へ平和に対するメッセージを伝えることができたのではないかと感じています。